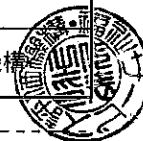


評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	鹿児島県指定 第4671100115号
法人名	社会福祉法人 野の花会
事業所名	もうひとつの私の家 なでしこ
訪問調査日	平成 22 年 2 月 22 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 13 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4671100115号		
法人名	社会福祉法人 野の花会		
事業所名	もうひとつの私の家 なでしこ		
所在地	鹿児島県 南さつま市 加世田村原1丁目 9番地6号 (電話) 0993-53-8885		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 星ヶ峯四丁目 2番6号		
訪問調査日	平成22年2月22日	評価確定日	平成22年3月13日

【情報提供票より】(平成22年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 9 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤14人 非常勤6人 常勤換算17.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1～3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円
敷金	有() 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	27名	男性	0名	女性	27名
要介護1	2名	要介護2	11名		
要介護3	9名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.7歳	最低	78歳	最高	102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	アルテンハイムリハビリテーションクリニック 南さつま中央病院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人野の花会は、このホームの他、介護老人福祉施設や介護老人保健施設などを展開し、「福祉文化の創造」を基本構想として、地域の医療・福祉をリードしており、講演会や研修の機会を作り地域福祉の充実に貢献している。このホームでは、利用者一人ひとりを尊重し、思いや意向を大切に、もうひとつの私の家として、「その人らしい 喜びのある ありのままの暮らし」を支援している。運営者・管理者・職員が高いレベルのケアを目指して、日々のサービスに努めており、利用者が笑顔で安心して暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の異動については、運営者・管理者共に馴染みの職員の支援の重要性を認識し、やむを得ない離職や異動に配慮して、利用者への影響など考慮したケアを実施するなど、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットごとに話し合い、職員から多くの意見が出されるなど、自己評価や外部評価をサービス向上に活かそうと取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に多くの参加者を得て開催され、ふれあい農園や七夕祭りへの参加など運営推進会議での意見が活かされている。災害訓練への地域住民の協力なども呼びかけ、運営推進会議を益々充実する取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に相談窓口を明記している。面会時や家族会・運営推進会議に家族代表に参加してもらい、意見や要望を聞く機会を設けている。出された要望や意見は、全職員で共有し、運営に反映するよう対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し、回覧版の届けや地域の清掃活動に参加している。ボランティアの受け入れや事業所独自の秋祭りなどが地域住民の楽しみになっている。毎日の買い物や地域に開放された「癒しの庭」の利用等で地域と自然な交流の場ができています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の「福祉文化の創造」を基本に地域密着型サービスとして年間テーマに「その人らしい喜びのある ありのままの暮らし」を掲げ、事業所独自に地域密着型サービスを含む6つの重点目標を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会等で、理念や年間テーマ・重点目標について全職員で共有し、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧版を届けたり、地域の清掃活動などに参加している。ボランティアの受け入れや事業所独自で実施している秋祭りは子供達と一緒に楽しく遊ぶなど、地域の人との交流の場ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価について、全職員が意義をふまえて、ユニットごとに話し合い、職員の中から多くの取り組みでいきたい事などの意見が出され、評価をサービス向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に多くの委員の参加を得て開催されている。会でも出された意見により、ふれあい農園や七夕祭りへの参加など取り組んでいる。警察や消防にも参加を依頼するなど、サービス向上に取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と、日頃より電話やメールなどで連絡を取り合い、連携を深め気軽に相談できる体制であり、共にサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態やホームでの様子などを、電話や面会時に報告している。家族会や秋祭り・クリスマス会等の行事の時にも利用者の様子や職員の異動などを報告している。また、出納簿についても報告して確認をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は家族代表に参加してもらっている。秋祭り・クリスマス会等に開催する家族会には、家族の参加も多く、意見や要望等を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は馴染みの職員による支援の大切さを重視し、職員の育成に努めている。やむを得ない異動や離職に対しては、引継ぎの時間を長くしたり、利用者に応じた適性な配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員の研修に取り組み、テーマに添った講師を招き、講演や研修・勉強会を実施している。年間計画でリーダー研修会も年5回実施し、段階に応じた研修の機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域福祉のリーダーとして関係機関と協力し、トータル支援パスについてシンポジウムを開催する等、活動を通してサービス向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は本人や家族と十分に懇談し、本人にふさわしい環境に配慮している。家族や友人の面会を勧めたり、本人の気持ちや思いを尊重して、徐々にホームに馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、郷土料理や昔のしきたりなどを教わることもある。またホームの行事の企画運営に利用者・家族・スタッフで取り組む事で、支えあう関係が築かれている。職員が、利用者を理解し、尊重する姿勢で接している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を把握する事が、ケアの基本と捉え、関係者からの情報収集に努めている。「その人を知る」をテーマに研修するなど、本人本位で検討するためのスキル向上に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との会話や、スタッフのミニカンファレンスでの意見などを参考に、定期的なモニタリングとサービス担当者会議で検討し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	課題ごとの期間で見直しを行っている。状態変化時は本人・家族・必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を新たに作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしてい る	医療連携体制による訪問看護や通院介助・自宅 訪問・墓参りなど、本人や家族の要望に添って 柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する、かかりつけ医の受診を 支援している。協力病院の往診もあり、適切な 医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、で きるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかか りつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共 有している	重度化や終末期の対応について方針を決め、本 人や家族と事前指定書を作成している。状況変 化時は、家族や主治医と話し合い方針を共有し ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよう な言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱い をしていない	ホームの理念に掲げ重要視している。採用時に 個人情報保護の誓約書を取り、研修を実施し、 言葉かけや対応などプライバシーの確保の徹底 に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	待つ事を基本としたケアを実施し、本人のペー スを尊重している。本人が希望を言える環境を 整え、家族に協力を求め、その人らしい暮らし を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選びの買い物や下ごしらえ・片づけまで、それぞれの力を活かして一緒に行っている。献立も季節感や郷土料理などを取り入れて、誕生会は本人の希望のものを作り、食事を楽しめるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からの入浴希望者が多いが、希望があればいつでも入浴できる。入浴を好まない利用者にはタイミングなどの工夫をして、くつろいで入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味や生活歴などから、生け花やお茶の接待など役割をお願いしている。脳の若さを保つために「脳いきいきリハビリ」を取り入れたり、季節の行事や花見などの楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や買い物・1階テラスでのティータイム・ホームに隣接する「癒しの庭」での語り・レクリエーションの時間など、戸外での活動の工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初より、鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出希望時には、スタッフが寄り添い外出を支援し、面会の方も自由に出入りしている。警察との連携も取れ、協力関係も築かれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に防災訓練を行っている。今後は地域の人々にも協力を呼びかけ、火災訓練を実施する予定である。法人施設に災害に備えて水や食料品を備蓄している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を記録して、一人ひとりの状態に合わせ、小さく切ったり、刻み食などの支援をしている。献立への栄養士のアドバイスも定期的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの備品や装飾が季節ごとに配慮され、調和が取れた落ち着いた雰囲気である。玄関に季節の花が活けられ、家庭的で居心地良くすごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室毎にトイレと洗面所があり、ホームの備品も利用者に馴染みやすい家具を用意している。家族の写真や人形など飾り、安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。